

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
安形 真	あがた まこと	合同会社アグリホリック	<p><農業関連事業> 農業(生産～販売)、農業体験(ツアーの受入中心)、市民農園、農家レストラン</p> <p><地域活性化事業> 奥三河若手起業家プレゼン大会、若手起業家育成コミュニティ「新城志塾」、定住促進事業(予定)</p> <p>現在は農業関連事業で収益を上げながら、新都市への交流人口の増加に寄与しています。</p> <p>2015年より国指定文化財「大野宿 鳳来館」の運営を委託され、売上高を前月比170%を達成。経営状況を改善しつつ、地域内のネットワークを活用し奥三河への誘客促進にも貢献しています。</p> <p>その傍ら、域内の若手起業家育成に力を注ぎ、地域資源を活用した事業を中心に若者の定住(仕事作り)と域内の新たな魅力作りに取り組んでいます。</p>
天野 礼子	あまの れいこ	NPO法人「日本に健全な森をつくり直す委員会」	<p>H23年より、島根県西部の高津川流域の三市町、益田市、津和野町、吉賀町に「総合特区」への立候補を推め、当選。「アドバイザー」を務めた。事務局長を務めるNPO法人「日本に健全な森をつくり直す委員会」では養老委員長と共に、高津川流域に「二地域居住から定住へ」を進めてきている。</p>
飯田 修	いいだ おさむ	独立行政法人医薬基盤研究所 薬用植物資源研究センター筑波研究部	<p>漢方薬など医薬品原料となる優良生薬の国内生産を目指し、長年薬用植物の栽培と育種研究に従事。その間、茨城県つくば市、北海道名寄市、静岡県南伊豆町、鹿児島県中種子町にて勤務し、センキュウ、トウキ、ミシマサイコ、ウコン、ガジュツなど北方系から南方系まで多種多様な薬用植物の育成・栽培を行ってきた。さらに薬用植物の栽培指針と品質評価の冊子作成に携わり、栽培地での栽培指導や助言を行ってきた。今後、薬用植物の国内栽培の普及と振興を目指し、国産生薬の安定供給体制の構築に向け、生産のための支援を行って行きたい。</p>
磯田 進	いそだ すすむ	-	<p>昭和大学薬用植物園では講義のほか、栽培研究や栽培管理に従事していたが、その知識や経験を通し、現在、昭和大学、昭和薬科大学、東京農業大学および放送大学で非常勤講師として教育指導を行っている。また山梨県や東京都など各地で市民講座や自然観察会を通し、自然の大切さや薬草の重要性を紹介している。これまでの経験を生かし、社団法人東京生薬協会の薬用植物栽培指導員として各地で薬用植物に関わる啓蒙や栽培指導を行っている。</p>
五日市 知香	いつかいち ちか	株式会社パイロットフィッシュ	<p>商品開発・小規模生産者、事業者支援 零細事業者や過疎化で悩む地方を主体に取り組みを行っています。ベースは「6次産業化」。新商品企画、商品化までの計画、パッケージ、パッケージデザイン、商品名、広報、商品改良までトータル的な商品プロデュース、コーディネートを行っています。</p>
伊藤 直弥	いとう なおや	一般社団法人栗のなりわい総合研究社	<p>栗栽培、栽培研究、農産加工、販売、栗を活用した地域振興のための講習と講義の実践、栗以外の作物の栽培、加工、の研究と販売</p>
伊藤 靖	いとう やすし	一般財団法人 漁港漁場漁村総合研究所	<p>①全国の漁場造成にかかる調査研究を通じて儲かる漁業への提案 ②全国の漁港漁村地域の活性化事例の調査を通じた、地域活性化事例の分析及び評価方法に関する取り組み ③東日本大震災により被災した地域の水産業復興計画の策定に関する取り組み ④岩手県大槌町水産業アクションによる漁業者学校の取り組み等</p>
井上 将太	いのうえ しょうた	井上地域づくり事務所	<p>○森林・木材を活用した新たな商品やサービスの開発及びマーケティング ○中山間地域などでの体験型観光のプログラム及び仕組みづくり(廃校活用など) ○住民参加のまちづくりに向けての場のプロデュース(ワークショップ運営) ○中心市街地でのソフト事業のプロデュース ○1次産業分野での環境教育のプログラム開発 ○各種セミナー・講演講師(講演実績:安芸市商工会議所女性部、香美市公民館、高知県婦人会、吉野町まちづくりセミナー)</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
井上 俊彦	いのうえ としひこ	一般社団法人 札幌・北海道コンテンツ戦略機構／(株)コムブリッジ	※地域ブランド(食・観光)の創造・商品開発 ※地域ブランド商品(食・伝統工芸品)の輸出促進 ※地域のインバウンド観光促進 ※地域における海外情報発信(SNS・メディア活用) ※地域におけるDMO設立支援・地域プロデューサーの育成
岩崎 亘	いわさき わたる	株式会社イージェイ	株式会社リクルート在籍時、クライアントである東証一部上場プライダル企業と、伝道師の地元であるみかん農家(実家含む)を繋ぎ、CSR×教育研修として、人手不足の農家の農作業の手伝いや、廃棄していた摘果みかんを使用した酢を開発し特産品として販売するというプロジェクトの推進を支援。 株式会社フォーバルでは、神奈川県伊勢原市にある「石田牧場」の6次化事業であるジェラート屋の立ち上げ～軌道に乗せるところまでのコンサルティングを行い、人気店に育て上げた。 農業法人である株式会社和郷では、都市と農村を繋ぐ「農園リゾート」という新しいコンセプトを打ち出した滞在型施設「THE FARM」や「THE FARM CAFE」等を立ち上げた。 現在は、廃棄するか二束三文で売られてしまう規格外農産物や未利用農産物を活用し、コールドプレスジュースという付加価値の高い商品を製造・販売している。熊本県合志市の農産物だけで作ったジュースを開発し、東京にある自社店舗でPRしながら販売することで、地域や地域の特産品の認知度向上に貢献するなど、トレンドに上手く乗せた地域活性化を行っている。
内田 勝規	うちだ かつのり	(株)オフィス内田	<p>《講演記録》 北海道経済同友会、中小企業家同友会、経営合理化協会、北海道庁、鹿児島県、各地商工会、帯広信金、北海道銀行、福岡銀行、楽天、目白大学など</p> <p>《講演テーマ》 地域ブランドについて、売れる物作りについて、食の可能性と課題、首都圏の顧客ニーズについて、北海道物産展に見る地域ブランド</p> <p>《マスコミ紹介記事》 ＜テレビ＞ 日本テレビ『リアルタイム』『秒ヨミ』『ズームインスーパー』『ズームサタ』『スッキリ』 テレビ東京『ルピコンの決断』『日曜ビッグバラエティ』『グルメ魂』『戦士の逸品』『ワールドビジネスサテライト』 NHK『クエスタ』 BSフジ『プライムニュース』、NHK、テレビ朝日、TBS各番組 北海道各局『HBC』『STB』『HTB』『UHB』『TVH』</p> <p>＜新聞＞ 日本経済新聞、朝日新聞、日経MJ、北海道新聞、十勝毎日新聞</p> <p>＜書籍＞ フォーブス、週刊ダイヤモンド、日経トレンディ、到知、戦略経営者、ストアーズレポート、クオリティ 新潮社『旅』(連載中)</p>
大島 肇	おおしま はじめ	(株)アール・ピー・アイ	大学在学中より漁村や水産業を対象とした調査・計画に従事。(株)漁村計画研究所、財団法人漁港漁場漁村技術研究所を経て現職。地域経済の分析、産業振興とりわけ水産業や漁村振興に主に取組んでいる。水産業や漁村の振興のため、平成22年より、全国の漁業者等と共に、(株)エンジョイ・フィッシャーマンを設立、取締役として、都市漁村交流、食育、魚販売といったプロジェクトの企画、運営、調整にも取組んでいる。
小野塚 喜明	おのづか よしあき	しおざわ版ダッシュ村	四季を通して農業と観光の結び付きをツーリズムへのろしプロジェクトでは自立型事業へ 産業廃棄物処理場計画から環境モデルへ 各地へ講演活動
春日 隆司	かすが たかし	特定非営利法人しもかわ森林未来研究所(北海道下川町)	<ul style="list-style-type: none"> ○地方創生総合戦略 ○森林バイオマス活用による地域振興 ○二酸化炭素吸収・削減クレジット創造 ○環境未来都市 ○自然資本 ○持続可能な開発目標(SDGs)準拠のまちづくり ○その他地域振興全般

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
勝本 吉伸	かつもと よしのぶ	株式会社シンセニアン	農産物直売所の出荷者や運営者、行政関係者を対象とした講演が年間100回以上に上る。また、販売額の低迷している直売所に対する経営改善や農産加工品の開発支援等を目的とした各地の直売所の訪問も、年間100か所以上を数える。講演や直売所の訪問では、直売所の責任者であった実経験と知識、農業改良普及員や農協営農指導員の経験を生かし、現場に密着したコンサルティング業務と身近で具体的な情報提供、さらには農産物の栽培対策と加工品の販促対策に重点を置いている。
加藤 裕之	かとう ひろゆき	東北大学未来科学技術共同研究センター	下水道が有する資源を農業に利用することは、下水道の有するイメージ等からなかなか難しいプロジェクトである。全国的なベストプラクティスを紹介することで、進めるための技術的手順、地域内のコミュニケーションの取り方、マスメディアの活用等を織り交ぜながら、次第に普及展開していく方法を理論化している。この普及理論は、下水道の農業利用にとどまらず、さまざまな地域活性化のためのムード作りにも役立つと考える。
金井 藤雄	かない ふじお	生薬コンサルティング/明治薬科大学	1、ベトナムにおける桂皮の栽培について事業化に成功し村全体の活性化につなげた。2、ロシアのアルタイ州などにおいて甘草の野生収穫および栽培・集荷を行い地域の活性化へつなげた。3、ロシアのイルクーツク州において麝香鹿の育成と集荷、狩猟許可に基づき麝香鹿確保、麝香牧場に放牧・育成し麝香を集荷するビジネスモデルの構築を実施した。4、ブラジルにおける牛黄・吐根などの生薬の集荷、日本薬局方による品質管理の指導等を行っている。5、三重県における薬用植物栽培事業について専門家として委嘱を受けて活動している。6、各市町村からの問い合わせをいただき丁寧に薬用植物栽培の相談を受けております。7、薬用植物栽培から事業化移行に伴う医薬品製造業、医薬品製造販売業の許可取得・承認申請・GQP・GMPの指導を行っている。
鹿野 美弘	かの よしひろ	NPO法人 薬草木を育てて地域産業と観光資源を作る会	地域の生活の質の向上のため漢方医学の知識、経験を用い地域活性化のために下記の3点から取り組んでいる。 1. 荒廃しつつある田園、中山間地区を薬草木の植栽により再利用、活性化を進め、平成27年度は薬木サンシュユの植栽に関し、農水省・薬用産物等地域特産作物産地確立支援事業の助成を受け、中山間地区の篤農家10数名と継続中。 2. 医師。薬剤向けの漢方臨床基礎理論講座(薬証会・15回シリーズ)を全国80ヶ都市で開催したが、NPO法人開設後5年間で岡山、徳島、松山で開講している。 3. 漢方医学を大衆向けにし、平成26年以降、地域住民に無償の薬膳学校を開き薬膳学、薬膳素材学を講義、薬膳実習を行い健康的で楽しく豊かな生活の普及を進めている。一卒業生は薬膳食堂を開設した。
川口 真	かわぐち まこと	標津町産業クラスター創造研究会	食中毒の風評被害によって、地域経済が危機に直面した事から、万が一にも食品事故を起さない取り組みとして、漁場・市場・加工・流通までを一貫した浜の高度衛生管理システムの「地域ハサップ」を樹立して、11年を経過。今や「地域ハサップ」は町の誇りや魅力として、鮭や帆立貝のブランド化に大きな貢献をしている。又、この活動を消費者に知らせるために、漁港などの生産現場を開いて消費者への「観光体験の拠点」としての活用を図った「標準版エコツーリズム事業」を創設し、鮭の荷揚げや水産加工などの産業現場体験や漁業者との交流を中心に、農業も含めた産業や生活、自然など町の足元にあった「何気ない地域資源」を「体験観光素材」として磨き上げ、町民ボランティア観光ガイドの養成と組織化の融合によって、今や20校余りの修学旅行が関東・関西方面から訪れる「目的観光地」として成長した。これは、生産現場を開くという「産業の観光化」によって、「観光が産業化」したものである。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
衣笠 愛之	きめがさ よしゆき	有限会社夢前夢工房、株式会社兵庫大地の会	<p>平成6年 ・農業規模拡大を決意する(専業農家へ)</p> <p>7年 ・経営改善計画認定取得する(認定農業者)・無農薬栽培本格的にはじめる</p> <p>9年 ・生きがい農園を主催する</p> <p>11年・農業生産法人設立 ・夢そば作付け開始 ・小学校農業体験に関わる</p> <p>12年・青空市場「夢」設立 ・夢そば推進協議会を結成する</p> <p>15年・特定農業生産法人認定される ・夢そば乾麺完成 ・ひょうご安心ブランド取得(無農薬認定)</p> <p>17年・新規就農研修施設「夢工房」を設立する</p> <p>18年・環境創造型農業兵庫県モデル地区に認定される(10ha)</p> <p>20年・食育アドバイザー指導を始める ・第1回田んぼアートを開催 ・地元スーパーとの連携開始</p> <p>21年・姫路市夢さき夢のさとの指定管理者になる(夢やかた)・農家レストラン「夢工房」オープン</p> <p>22年・産官学連携商品開発への取り組み、米粉食品指導員免許取得((財)日本穀物検定協会)</p> <p>23年・6次化法認定(農林水産省)、食と地域の交流推進事業認定(平成23～24年)</p> <p>24年～25年・イチゴハウス(37a)、直売所「夢街道farm67」開設</p>
小島 由光	こじま よしみつ	株式会社スーパーソニック / 五島列島水産流通株式会社	<p>第3次産業(流通・外食マーケティング)の目線で第1次産業、第2次産業を結びつける6次産業化を実践。地域の特産品を見出し、川下の流通戦略をもって生産物が流通し、地域活性化に繋がる仕組み構築を行います。第1次産業・・・地域活性化支援事業 農産物・水産物のブランディング及び流通提案 第2次産業・・・地域特産品の消費マーケットニーズ、ターゲットを踏まえた商品開発提案 第3次産業・・・流通、外食事業コンサルティング、経営分析。●水産物(鮮魚)の産地直送の仕組み構築による目詰まり解消を行う。飲食店への直接 流通によって生産者の収入高と購入者の仕入れコスト減を実現、また産地直送により最短時間で届くため鮮度保持が向上し、多くの水産物流通につながる。(五島列島水産 流通) ●地域活性化に伴う地元主体組織構築と特産品開発、ブランディングにより地産地消型消費構造から地産他消に拡大。地域の知名度向上と特産品販売増を実施。(久賀島 ファーム)</p>
後藤 卓治	ごとう たくじ	一般財団法人 漁港漁場漁村総合研究所	<p>①全国の漁港漁村地域の活性化事例の調査を通じた、地域活性化事例の分析及び評価方法に関する取り組み</p> <p>②漁港・漁村地域におけるエコ化に関する取り組み</p> <p>③漁港における水産物の安全安心を確保する為の衛生管理に関する取り組み</p> <p>④東日本大震災により被災した地域の復興計画の策定に関する取り組み</p> <p>⑤災害に強い安全で安心な漁業地域づくりの為の防災・減災計画に関する取り組み</p> <p>⑥子ども達に魚食を普及させるための取り組み</p>
佐藤 靖也	さとう やすなり	一般社団法人 木質ペレット推進協議会 / 株式会社WPPC	<p>木質ペレットの普及活動及び事業化の経験を生かし、地域に賦存する木質の未利用資源(間伐材等の森林資源や製材所等の木屑等)を木質ペレットに加工し再生可能エネルギーとして地域内に地産地消としてエネルギー循環させることで化石燃料の使用を食い止め、地域外(海外)にお金を流出させず、地域内にお金を留まらせる(循環させる)ことにより、地域の経済活性、雇用創出、しいては環境保全に繋げる仕組みづくりを社会事業としてビジネス化し継続させることを目的とした活動を行っている。</p>
沢畑 亨	さわはた とおる	愛林館	<p>1:食</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所の素材を中心に加工食品(味噌、漬け物、ドレッシング、クッキーなど)を製造販売。 ・近所の素材を活かした「ふるさとレストラン」を月2回開店し、高齢者の活性化に貢献。 ・水保の素材を味付けした本格タイカレー・インドカレーなどのレストランを土日祝日に営業。 ・そば/うどん/豆腐/こんにやく/バウムクーヘンを2時間で作る体験教室。 ・家庭料理を持ち寄り、食べる「家庭料理大集合」を10回開催。集まった料理約700種はデータベースとしてまとめた。 <p>2:環境学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアと植え、草刈り・つる切りを行った21haの「水源の森づくり」。 ・棚田25aで香り米を耕作。50aの草刈りを山羊を活用して行う。 ・会費をいただいた会員向けに大豆を育て、収穫を配当する「大豆耕作団」森を棚田保全を行い、食育のプロを「棚田食育士」を養成し、屋根のない博物館「村丸ごと生活博物館」でグリーンツーリズムを行う。 熊本県「緑化功労者」、棚田学会「棚田学会賞」、総務省「過疎地域自立活性化優良事例」総務大臣賞など受賞多数。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
柴田 敏郎	しばた としろう	独立行政法人 医薬基盤研究所 薬用植物資源研究センター	<p>現在、漢方薬など医薬品の原料となる生薬や薬用植物の供給は中国はじめ海外に依存し、自給率は12%になっている。近年、中国内での需要の増加や物価の上昇の影響で生薬や薬用植物の価格が高騰し、安心・安全な国内産の生薬や薬用植物の安定供給が業界(需要者)から求められている。一方、地域活性化の一環として薬用植物栽培への取り組みを求める声が全国の地方自治体や農業従事者(供給者)から上がってきているが、医薬品業界の求める品目や品質及び価格情報が正しく伝わっておらず、また、種苗の確保や栽培の指導者が不足していることもあって需要と供給のマッチングが進んでいない。</p> <p>このような現状から、業界及び全国地方自治体からの要望をマッチングさせ国内栽培を振興、普及させるために、現地での栽培指導や助言を行う。このような活動を通じて、漢方薬など医薬品の原料となる生薬や薬用植物の安定供給体制を構築し、自給率の向上及び農業や地域の活性化に寄与することを目指す。</p>
須川 一幸	すがわ かずゆき	㈱地域振興研究所/東京富士大学	<p>昭和58年から地域に入り、地域資源の調査の現場で「地域の宝物」を再発見する活動を実践してきた。イベントによる地域活性化から入り、商店街振興、観光振興、農業振興、福祉や教育・文化の振興など地域のあらゆる分野の活性化に企画・計画～実施～検証～時代に合った計画に修正～実施～検証と継続的に地域と関わってきた。特に、宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町については、グリーン・ツーリズムによる活性化にはじまり、商店街振興、観光振興、介護福祉計画、長期総合計画と町のすべての分野に関わり、町のシンクタンク的存在としての役割を担ってきた。その後、熊本県の農産物直売施設(道の駅物産館を含む)の立ち上げ、再建、運営指導などを行い、長崎・佐世保・雲仙アンテナショップ「キトラス」の販路拡大コーディネーターや福岡市商店街活力アップ支援事業の手伝い、JA熊本直売所の運営アドバイス、限界集落での高齢者による地域づくり活動支援等を行い、全国的には地域活性化センター「全国地域リーダー養成塾」の講師やNPO法人全国街道交流会議の理事として歴史街道市町村の街道を活かしたまちづくりにも参画している。また、JICAで中央アジアや中南米の行政研修の講師も務める。太宰府市では「米づくり隊」「カンボジアに井戸を掘る会」「東北の酒を飲む会」等地域づくりを地域住民と共に実践している。九州・沖縄地域づくり会議顧問、九州国立博物館を愛する会アドバイザー、博多献上道中実行委員、スリートピアプロジェクト実行委員を務める。</p>
関 いずみ	せき いずみ	東海大学海洋学部	<p>地元漁業・水産業を核とした地域活性化に向けた取り組みを実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉市の水産業振興に係る業務 ・地元水産物を地元へ流通させ、地域漁業と消費者との連携を構築していく。 ・伊東地域の食文化調査 <p>地域の伝統食や行事食、新たな加工品等の掘り起こしをし、食を通じた地域活性化につなげていくための調査の実施。</p>
高橋 朝美	たかはし あさみ	一般社団法人環境パートナーシップ会議	<p>学生時代よりグリーンツーリズムに携わり、有機農業が盛んな地域での農協職員経験を経て、2014年より現職。主に関東圏内で、地域の環境課題解決に取り組む様々な主体(市民団体、自治体、企業)をつなぐコーディネーターを担っており、協働取組やESD人材育成に関わる業務など、地域での環境課題解決に向けた取り組みを支援している。</p>
高橋 肇	たかはし ただし	山口大学農学部	<p>「小麦栽培から始めるパンづくり」～山口県産小麦粉を使った地産地消パン普及のとり組み～</p> <p>山口県周南市で「自分たちで栽培した小麦を収穫してパンをつくりたい」という田舎好き、パンづくり好きの仲間たちとともに、石窯を使って作るオリジナルのパンづくりを研究してきた。10年間の研究を通じて、山口県のすすめる県産小麦を使った地産地消パン普及のとり組みにも協力してきた。小麦栽培、小麦粉の製粉、石窯の扱い、パンづくりなどの科学として演出し、大学の公開講座として市民に提供してきた。講座の受講生を介して仲間をひろげ、とり組みをすすめている。このとり組みは、過疎高齢化で崩壊しようとしている地域でのコミュニティ回復策の一例として農林水産業関係者から注目されてきたとともに、食育や食農教育の素材として環境教育関係者からも注目されてきた。</p>
武田 昌大	たけだ まさひろ	株式会社kedama	<p>◎秋田県北秋田市に会社を設立。少子高齢化日本一・人口減少率日本一の秋田の活性化をミッションとし奮闘。《農業活性化事業》2011年、秋田県の若手米農家集団トラ男のブランディングとネット販売・飲食店への卸売・体験イベントなど独自販路の拡大。出荷量を初年度の60倍に伸ばし、全国に約3000人のファンを獲得。百貨店「高島屋」での販売や、無印良品のサイト販売などの企業コラボも多数実現。都内飲食店への卸売販売など販路開拓された。《古民家活性化事業》2015年、秋田県五城目町にある築133年の茅葺古民家をリノベーションして会員制のゲストハウス「シェアビレッジ」をオープン。2015年、グッドデザイン賞ベスト100・特別賞地域づくりデザイン賞受賞。全国に残る古民家を村に変えることで都市と田舎を新たなつながりを拡大中。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
田島 信太郎	たじま しんたろう	田島山業(株)	「森づくり」「森林環境教育」等のプログラムは、森林と林業、山村のライフスタイルを都市部の人々に紹介することを目的としている。国土の3分の2を占める森林と、そこに住む人々の暮らしを国民はほとんど知らない。山村は過疎化を通り越して「限界集落」と呼ばれ始め、林業は既に「産業として成り立っていない」とすら言われている。これすなわち「国土の3分の2が危機的状況にある」ということだ。「助けてくれ」とは言わないが、せめて「警告を発する義務」はあるのではないか。林業を効率化することで外材に打ち勝ち、更に森林と共に暮らす魅力を紹介することで、山村は活性化すると信じている。
田中 豊	たなか ゆたか	アジアネット	○農林水産物・地場産品の海外販路開拓(輸出)に関する総合的なサポート ○地域及び農林水産業における海外展開・経済交流事業等のアドバイス ○地域の産業・経済・物流・人材等に関する各種国際事業のアドバイスや支援活動 ○アジア各国とつながる地域戦略サポート
種市 俊也	たねいち しゅんや	有限会社 食と地域・建築研究所	・水産業をはじめ第1次産業を主産業とする地域における地域活性化や生活・産業基盤整備、災害からの復興の計画立案に、主に行政を支援する立場から関わっています。 ・第3者の計画技術の専門家として、地域の関係者の意向・アイデアの把握、地域の情報収集・分析、実現のためのたたき台案をつくり、意見交換を通じて合意形成につなげる裏方の役割を仕事としています。具体的には、①地域の特色の把握・確認、②資源の探索と活用のためのアイデアだし、③活用方策の練り上げ、④実現のための体制づくり、⑤支援方策導入を目論んだ事業化計画づくりをお手伝いしています。
都築 富士男	つづき ふじお	株式会社都築経営研究所	●雑誌「農業応援隊」の発行 ●講演活動 行政、金融機関、企業、農業、各種団体など 北海道から沖縄まで全国各地で講演活動 ●地域活性化活動 顧問先と一緒に地域活性化の取組活動
富田 宏	とみた ひろし	株式会社 漁村計画	漁村・漁港に係る地域振興計画や中小漁村を中心としたまちづくりに関するコンサルタント活動を中心に、大学などの研究者や現場でのシンポジウムや住民との膝詰めのパネルディスカッション、雑誌・著作等を通じて漁村の地域振興に関する提案及び具体的な直販・交流施設等の企画・基本・実施設計などにも取り組んでいる。 日本大震災以後は、ボランティアによる被災漁村復興支援活動と共に、主に水産庁、市町村委託による漁村復興計画策定と並行して、大学、各種学会他のシンポジウム等に積極的に参加、発言を続けている。また、最近では、水産庁の主要施策となっている「浜の活力再生プラン」の策定について、それぞれの漁協等を中心とした再生委員会の活動の相談に応じ、プラン作成を一過性の書類作成に終わらせるのではなく、息の長い漁業・漁村づくりにつなげるための助言・支援を行っている。
富山 俊二	とみやま しゅんじ	黒部都市漁村推進交流協議会	漁業が持続可能な産業として適切な資源管理をはじめ漁場管理をしていき漁村を残すためには漁家所得の向上対策必要との観点から、流通改革が必要である。くろべ漁協では漁業者、漁協が直販施設を通じて消費者のニーズを直接把握し、魚だけでなく漁業や浜の情報、そして食文化を発信しながらファン作りに取り組んできた。特に魚は勿論、漁協女性部が取り組んできた一夜干をブランド化し、多くのファンを作り上げた。さらに定期開催を含めて年間20回以上に及ぶ料理教室、一夜干教室を通じ魚食普及を続けてきた。又、ボランティアガイドとの連携による漁村の町歩き、市内企業との産業観光との連携などを行うとともに着地型観光商品の開発など交流人口を増加させてきた。漁協が取り組む六次産業が鉄道も通らない町を年間25万人が訪れる町へと変化し、地域の課活性化が進んでいる。
中澤 さかな	なかさわ さかな	道の駅/萩しーまーと	●郷土料理遺産の活用プロジェクト(島根県隠岐の島町 2012～) ●久礼大正町市場を中心とした漁師町の再生(高知県中土佐町 2013～) ●道の駅整備計画基本構想策定(京都府宮津市2013～) ●水産物直売施設の整備検討(熊本県芦北町2013～) ●道の駅整備計画(第二期)基本構想策定(秋田県にかほ市2013～) ●直売施設整備計画 基本構想策定(秋田県羽後町2014～) ●直売施設整備計画 基本構想策定(宮崎県延岡市2014～) ●水産加工・直売施設整備計画(高知県奈半利町2014～) ●地域食資源の開発(秋田県男鹿市2015～) ●地域活性化拠点施設の整備計画(沖縄県うるま市2015～) ●地域食資源を活用した観光開発(三重県尾鷲市2015～) ●地域水産資源を活用した特産開発(長崎県長崎市2015～)ほか

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
中西 準治	なかにし じゅんじ	元・近畿大学東洋医学研究所・植物センター	農業振興のための施設を企画し、村へ提案をして教育実習の場、バイオセンターを設立しました。現在も花の種苗生産基地として運営されています。 そこでは花の優良品種を組織培養で多量に生産して農家へ提供し、地域の産業振興に貢献しています。 生薬メーカーや農家との共同研究で高品質の生薬を生産して商品化してきました。薬草の栽培を普及させる目的で、ハーブや薬草の苗を生産して大手市場を通して提供してきました。 海外に於いても韓国、中国、マレーシアなどの大学や研究所、そして企業へ薬用植物などの有用作物を組織培養で大量生産する技術を指導して、種の保存や大量生産に貢献してきました
中坊 真	なかぼう まこと	NPO法人九州バイオマスフォーラム	NPO法人九州バイオマスフォーラムは、バイオマスの普及啓発事業、地域モデル事業としてバイオマスの利活用事業、コンサルティング・講師派遣・バイオマス製品の普及事業を行っています。特に草本系バイオマスの収集運搬・利活用技術に関しては、多くの情報・ノウハウを持っています。 バイオマスの普及啓発事業としては、テレビ熊本と連携してH19年度からバイオマスをテーマにした55分番組を制作・九州一円で放送しています。また、BDFカートやミニBDF精製プラントを使って、小学校でバイオマスをテーマにした環境教育を行っています。 2011-2013年度は、竹田市の厚生労働省によるパッケージ事業として雇用創出・人材育成の講師・コーディネートを、木・竹・BDF・小水力をテーマに、月1回のペースでセミナーを開催し、地域資源を活用した事業化にむけたアドバイスと人材育成を行いました。 木質バイオマス利用については、熊本県内を中心に講演・アドバイスを行っています。
中洞 正	なかほら ただし	(株)山地酪農研究所	* 東京農業大学農学部在学中に、猶原恭爾（なおはら きょうじ）氏が提唱する山地酪農に出会い、直接教えを受ける。卒業後、岩手県岩泉町で酪農を開始。 * 野シバと国産乾草主体の飼育、および通年昼夜放牧・自然交配・自然分娩・自然哺乳（産後2カ月程度）でノーストレスの健康な牛を育てる山地酪農と、その健康な生乳による乳製品の製造販売を組み合わせた「中洞式山地酪農」を確立。 * 現在は、山地酪農コンサルタントとして活動中。これまでに自身の創設した中洞牧場以外にも北海道の美瑛ファームなど3～4件の牧場を手がけている。
中村 健二	なかむら けんじ	三ヶ目町観光協会	平成20年3月、関東経産局・関東農政局より「三ヶ目のブランド化による廃棄ミカンを利用したペーストの商品化」で地域産業資源活川計画に基づき第3号認定をされる。地元では、有名ブランドミカンとしてのステータスはあったにせよ、加工品が皆無であった状況を、このペーストが変革を起こして百数十の商品が世に送り出されることとなった。一方で、この事業活動の地域還元の一環として、20代から70代までの有志を募り、まちおこし勝手巡「ステキみっかび発信プロジェクト(=SM⑥Pe:スマップ)」の発起人で事務局長として活躍。地元商工会を通じて、中小企業庁の中小企業庁の平成21年度地域資源・こ(無限大)全国展開プロジェクトに「三ヶ目町日本一のみかんの里全国展開プロジェクト」として詰定を受け、町民の意識を一つにするというフォーカスから、事業の中心的役割を担う。その後、専門学校バンタン映像映画学院(東京都)とジョイントし、外から見たわが町を映像化しようと、自主製作の短編映画三部作の制作指揮の企画がスクートさせる。地域産業資源活川認定の5年間の事業期間が終わるのを受けて、町内の中小企業等の有志を集結させ、これまで築き上げてきた三ヶ目ブランドを新たに海外へ売り込むべく、「三ヶ目ブランド国際化推進協議会(会長職)」を立ち上げ、「農業産業化・地域活性化を実現する『Mikkabi』ブランド海外展開プロジェクト」に取り組むこととなる。このプロジェクトは、中小企業庁のJAPANブランド支援事業に採択された。2012年夏には、浜松市「みんなのはままつ創造事業」に採択されて、第二次大戦の切り札として陸軍が秘密裏にわずか2輦しか生産されなかった四式中戦車チトが、地元浜名湖に隠され沈められたという言い伝えから、「幻の戦車発掘プロジェクト」を立ち上げて、ソーシャルネットワーク(・cebook)を駆使して全国に発掘りレポート情報を発信している。2013年より、中南米日系農業者交流促進事業の実施委員も務める。
中村 哲雄	なかむら てつお	一般社団法人葛巻町畜産開発公社	平成24年1月22日農林水産省東北農政局主催の農山漁村の地域活性化シンポジウムのパネラー、地域活性化講演実績、北海道東川町、七飯町、宮城県北6町の議会議員、涌谷町、山形県山形市、最上町、東京目黒区めぐろシティーカレッジ。大学関係では、お茶の水女子大学生、岩手大学生8回講義。葛巻町に来町した沖繩県名護市会議員、北中城村議会議員、千葉県印旛郡議会議員、早稲田大学院生、明治大学生、日本大学生、東北学院大学生などに地域活性化について講演。平成25年は山形県最上町、宮城県涌谷町、岩手県岩泉町、奥州市、神奈川県川崎市、東京都稲城市などで地域活性化について講演。平成26年は東京都、金沢星陵大学などで講演、来日したフィリピンの農林省若手職員に地域開発と地域活性化について講演、現地指導など

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
野木 武	のぎ たけし	株式会社 野木源	農業体験・環境NPO法人活動(廃食用油回収・地域資源活用)により環境学習 消費者・実需者等との交流会 研修会地域食育・環境教育への参画 支援地域の農業資源保全と活性化
蜂谷 潤	はちや じゅん	一般社団法人 うみ路 / 合同 会社 シーベジタブル	2013年3月、高知県東端に位置する室戸を拠点とした地域の会社“一般社団法人うみ路”を設立。 主に地域内で生産される農産品や水産品を使用した加工品の開発や販売、地域内外の交流イベントや勉強会の企画、カフェの運営など地域に根ざした事業を多岐にわたって展開している。 2016年4月、海藻の陸上用養殖を中心に行う合同会社シーベジタブルを設立。 室戸市の特産品である海洋深層水で海藻の陸上養殖モデルを確立。その後は日本各地で展開できるよう、海水井戸水(地下海水)を活用し海藻やアワビ類の陸上養殖のモデル作りを行ってきた。現在はこのモデルをもとに、福祉作業所や高齢者等、成立させることが難しい事業者とパートナーシップを組んだ日本各地での事業モデル作りを行っている。
林 浩志	はやし ひろし	一般財団法人 漁港漁場漁村総合 研究所	近年の食品に関する様々な問題、O-157や産地偽装など食品の安全・安心に対する不安が高まっている。一方、忙しい社会生活、長引く不景気、ファーストフードやコンビニエンスにより家庭で料理をしない人々が増えてきている。さらに、魚介類についてはその数はより多い。このため、わが国が培ってきた食の文化が薄れ、食育(魚食)といった活動が行われてきている。このような状況にあっても家庭や外食・中食産業、食育の場へ安全で安心な水産物を提供するには、やはり漁港での衛生品質管理は重要あり、ここで品質が低下した魚介類は、その後回復することはない。このようなことから、水産物の衛生品質管理を軸に水産物の提供と一体となった地域づくりに取り組んでいる。
福田 達男	ふくだ たつお	北里大学薬学部附属薬用植物 園	国内で生産できる生薬を1種類でも増やすため、基原植物の生理・生態を明らかにし栽培技術の確立のための研究を行ってきました。また、生薬の基原植物の分類学的な検討を植物形態学や遺伝子、化学成分の3つの視点から研究し、基原植物の抱える色々な問題の解明に努めてきました。これまでに朮類生薬の基原植物、特にオオバナオケラの栽培技術の確立やタクシャの基原植物であるサジオモダカの栽培を国内で初めて成功しています。
船崎 美智子	ふなざき みちこ	ライフスタイル協同組合/ライフ スタイル研究所/NPO法人やまぐち 県民ネット21/公益財団法人山 口きらめき財団/山口県立大学	得意分野は、地域づくりを生かしたワークショップのファシリテーターである。地域、行政、企業、大学とNPO等をつなぐための仕組みづくりや、協働事業への取り組みを実施。地域の資源を生かした「地域づくり」、女性の視点で商品やサービスを提案する「モノづくり」、若者の就職支援や企業の人材育成などの「人づくり」の活動をする「地域プロデューサー」として活動している。 特に「農商工連携」や「6次産業化」の講師やシンポジウムのパネリスト、栄養士としての視点を生かして商品開発の企画・運営・経営戦略等の提案を行っている。また、最近では「協働のまちづくり条例」等の講演や協働事例の提供、中山間地域づくりなど広い分野で活動している。 ①6次産業化の取り組みと商品開発 ②まちづくり、地域づくりの実践ワークショップ ③商店街活性化のコーディネーター ④地域コミュニティの場づくり

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
前田 純二	まえだ じゅんじ	佐賀市上下水道局	<p>《これまでの取り組み》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成4年から微生物と米ぬかぼかしで、生ごみ堆肥化農業指導 ・平成22年から佐賀市生ごみ堆肥化等促進事業をNPO法人循環型環境・農業の会が委託、今年で6年目になる。 ・平成18年コスト削減と環境保全の取り組みとして、下水浄化センターの発生汚泥量削減と薬品削減を行う。 ・平成19年海苔養殖の漁期に、下水浄化センターの処理水の栄養塩の供給を開始。今年海苔の売り上げも前年比115%とその成果が現れ、漁業者から「宝の水」と喜ばれている。 ・平成21年循環型社会を目指し、浄化センターの下水汚泥の肥料化を開始。現在、年間1400トンを農家や家庭菜園の人たちが利用している。 「宝の肥料」と呼ばれ、2ヶ月半に1回、NPOで農業勉強会を開催、60人～80人参加。 ・平成23年消化ガス発電を開始、所内電力の40%以上をまかなう。 ・平成24年「循環のみち下水道、国土交通大臣賞」を受賞。 ・平成25年「日本水大賞未来開拓賞」を受賞。 ・味の素P菌体を下水道汚泥と混合、臭気の減量とアミノ酸の増量に成功、肥料の質が向上、市民の皆さんから喜ばれた。 ・平成26年2月佐賀市とユージェナ社と共同研究を締結。下水道を利用してミドリムシの培養を行い、バイオジェット燃料を造って、佐賀空港から東京オリンピックを見に行こう！を合言葉に進めている。 ・平成25年10月、世界初 佐賀市清掃工場からのCO2回収装置移動。 ・平成26年6月、佐賀市とアルビータ社が、藻類培養に活かすためのバイオマス活用協定締結。 ・平成26年6月、佐賀市と味の素社が共同研究契約締結。「バイオマス産業都市さが」の実現を目指す。 ・平成26年10月、CO2回収装置の横に植物工場を併設、CO2を入れてサラダ菜、グリーンリーフ、オーロラリーフなどを栽培している。1.5倍のスピードで成長している。 ・平成26年11月、「バイオマス産業都市佐賀」が国の7府省庁の認定を受ける。 ・平成27年3月、清掃工場内にアルビータ藻類培養実験プロジェクトがスタート。 ・平成27年5月、下水道革新的技術実証事業【B-DASHプロジェクト】に採択された。佐賀市の事業は、バイオマス中のCO2分離・回収と微細藻類培養への利用技術を実証するもの。ユージェナ(ミドリムシ)の培養を行う。
松嶋 匡史	まつしま ただし	株式会社瀬戸内ジャムズガーデン	<p>手作りジャム専門店「株式会社瀬戸内ジャムズガーデン」代表取締役。周防大島観光協会副会長のほか山口県のキャリア教育推進委員や活力創出推進会議委員なども務める。</p> <p>2001年10月に新婚旅行先のパリでジャム屋と出会い2003年11月個人事業として手作りジャム専門店を高齢化率日本一と言われた瀬戸内の島、周防大島(山口県)にて創業。</p> <p>耕作放棄地を借り受けて自社農業部門を立上げ、現在はブルーベリー・あんず・金時いも・いちご等を生産。店舗では自家製ジャムを活用したスイーツが楽しめるカフェギャラリーを運営するなど、ジャム加工のみでなく、農業(一次産業)・加工業(二次産業)・サービス業(三次産業)をミックスした6次産業形態の事業を展開。地域を巻き込んだ6次産業化を実践している。地域資源を活用し、地域に産業と雇用を創出することを主眼に活動を展開し、現在では首都圏からの移住者を含めスタッフは30人の規模。最近はお寺と連携した空き家のリノベーションで移住者の呼び込みを行ったり、全国初の小中高連携起業家教育への取り組みなど活動は多種多様。2014年新書大賞受賞の「里山資本主義(角川書店)」などでその取り組みが紹介されている。</p>
三宅 曜子	みやけ ようこ	(株)クリエイティブ・ワイズ 株式会社マーケティング・ナビ	<p>女性の感性を生かし、消費者ニーズを的確にとらえた中小企業のマーケティング全般の支援、地域の活性化事業支援を行っています。特に食関連のマーケティングに関しては、メニュー開発をはじめとする商品開発、パッケージやラベル、広告戦略、販路開拓までトータルに支援。工芸品に関しては、広島県熊野町の化粧筆を世界レベルのブランドにプロデュースするなど、商品開発から戦略支援までを実施。2007年、経済産業省の中小企業地域資源活用事業プログラムの政策審議会委員、また、衆議院経済産業委員会、中小企業地域資源活用促進法案参考人として国会に立ちました。以後、地域資源を活用した商品開発や販売促進、販路開拓、観光事業開発、農商工連携事業や農業の六次化、建設業の業態拡張や業態転換、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、海外展開支援等、中小企業の活性化に対する幅広いハンズオン支援を行っています。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
森 昭彦	もり あきひこ	有限会社オフィス・ビー／一般社団法人奈良県中小企業診断士会	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の育成と活用 <ul style="list-style-type: none"> - 管理者、監督者に対するマネジメント研修、リーダーシップ研修、経営管理セミナー実施 - 営業基礎研修、営業マネージャー研修、販売促進研修実施 - 採用支援、人材開発プログラム企画推進 - コンプライアンス、内部統制、リスクマネジメントの推進 ・地域活性化の支援と指導 <ul style="list-style-type: none"> - 地域活力増進事業、地域連携事業の支援・指導 ・ビジネスモデルの構築、事業計画の作成 <ul style="list-style-type: none"> - 新事業開発、経営革新、農商工連携、地域資源活用、6次産業化の支援 - 小売業、サービス業等の財務分析、ビジネスモデル構築、新規事業戦略策定の支援
森本 明夫	もりもと あきお	-	-
矢原 正治	やはら しょうじ	熊本有用植物研究所	<p>私は、地域には多くの「宝」が眠っているが、日常生活の中で当たり前となっており、地元の方は気づかないことが多いため、地元以外の専門家が、現地に入り、聞き取り調査を実施すると、その地域の多くの「眠れる宝」を見いだすことができると思っている。また、1次に、2次、3次を足して、6次産業と言われるが、情報関係が入っていないため「6次産業＋情報産業」を進める。</p> <p>地域にある、モノと人の宝を探し、まず、薬用植物、有用植物にフォーカスした、地域おこしを主とし、環境関係も絡め考える</p>
山形 正道	やまがた まさみち	山形薬用植物園 / 鹿児島県立福山高等学校 他4校	<p>鹿児島県民の森・自然薬草の森において協力員として、また大学で習得した知識や漢方薬・生薬認定薬剤師として見学の方々には薬草教室で薬草の講話と薬草園を散策しながら薬草を手にとって実感してもらい、職員の方々には薬草の栽培などの指導・助言を行いました。霧島市保健センターの要請で市民の方に薬草の話や健康についての講話を行っています。平成15年、自宅内の約300㎡に薬草園を開設、約450種の薬草木を植栽し、見学無料で一般公開しています。2年前から始良地区薬剤師会からの要請で薬学生5年次における長期実務実習(薬局・病院においてそれぞれ11週が義務づけられている)のカリキュラムの漢方製剤の単位として薬草見学1時間、漢方講義1.5時間行っております。これから先、漢方薬の原料である生薬の一大生産国の中国からの輸入が難しくなります。国内生産を模索する時期に来ていると思います。そこで、国内生産と自給率の向上のために生産者の方々に指導・助言等の支援ができれば幸いです。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
山川 進	やまかわ すずむ	公益財団法人 三重県産業支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・「企業誘致」…製薬会社、外資系企業など大型企業誘致を実現。東京、福岡において「SOHO(スモールオフィス・ホームオフィス)形態」での企業誘致活動を行い、企業・行政との新たなネットワーク構築を行う。 ・「新たな企業投資促進制度の創設」…マイレージ制度、マザー工場化の促進などを柱とする新たな制度を創設し、県内への企業投資を促進。 ・「コンビナートの再生」…行政・産業界が協働した、規制改革や新たな産業展開の内容をパッケージとし、構造改革特区に申請、第1号認定を受けることに尽力する。 ・「様々な連携」…「地域発のオープン・イノベーション創出」を行う「高度部材イノベーションセンター(AMIC)」を三重県四日市市に設置。地域の産業構造の「知識集約型産業構造」への転換を目指す。ここで、現在も異業種・同業種連携、大企業と中小企業の連携、各種課題解決、産業人材の育成などを行っている。 ・「温泉街の活性化」…三重県菟野町の湯ノ山温泉にて、各業者での取組を地域一丸となったものへとコーディネートし、「女将の会」結成などにつなげる。 ・「町おこしリーダー研修」…三重県紀北町の町おこしリーダー研修にてアドバイザーを務め、研修生の成果を行政や地元産業界とも連携した継続的な取組へと繋げる。 ・「中小企業連携(シンジケート)の促進」…複数のものづくり中小企業が得意とする技術やノウハウを結集し、技術レベル向上や新たなマーケット開拓などにつなげるための中小企業連携体の構成に尽力。三重県には全国トップクラスの連携体が構成されるに至っている。 ・「三重県海外ビジネスサポートデスクの開設」…成長する新興国等の市場を取り込むため、中小企業の海外展開を支援する「海外ビジネスサポートデスク」(中国、ASEAN)の設置に尽力。 ・「三重県と北海道との産業連携」…「『三重県・北海道』産業連携推進会議」の設立に尽力。三重県と北海道の「ものづくり技術」と「地域資源」の連携を進め、新たなビジネスの創出、さらには地域経済の活性化に繋げる。 ・首都圏営業拠点「三重テラス」…東京日本橋において、三重県の魅力を総合的に発信する拠点「三重テラス」の開設に尽力。 ・三重県中小企業・小規模振興条例の策定に尽力 ・職員研修センターで県職員向けの研修を実施。三重県職員の人づくりの参画、三重県の商工部門の第1人者として活躍した経験を基に、自ら研修講師として三重県職員に語りかけることで、現場を大切にしている職員を育成。 ・経済産業省の「ひとづくりの切磋琢磨による地域創生実行会議」の委員として参画。 ・沖縄県と連携して、沖縄の物流特区を活用した東アジア戦略を模索するほか、他地域との連携を検討中。 ・各地の事業者や産業支援機関と連携し、地域商社等を通じて地域製品の販売を促進。
山口 成美	やまぐち なるみ	有限会社 シュシュ	<p>地域農業の活性化を目指し平成8年にビニールハウスで農産物直売所をオープン後様々な施設を建設し、現在では農業交流拠点施設おむら夢ファームシュシュに年間49万人の来場者を迎えており従業員数約80名で地域の活性化及び雇用に大きく役立っている。</p> <p>また、六次産業にも積極的に取り組んでおり、アイス、パン、洋菓子、レストラン、農産物加工センター等で地域で採れた農畜産物を加工販売することにより農家の所得向上と付加価値を高めた地域ブランド商品作りを行なっている。</p> <p>他にもグリーンツーリズムによる地域の活性化も行なっており、イチゴ、梨、ブドウ、ブルーベリー等の観光農園や農家民泊にも取り組んでおり、都市と農村の交流を行なっている。</p>
米田 雅子	よねだ まさこ	慶應義塾大学 先導研究センター	<p>2007年～2010年に内閣府規制改革会議委員(地域活性化、農林水産業、あじさい・もみじ要望を担当)。補助金適化法の弾力運用、ボランティア有償運送の実現、農地法・酒税法・森林法改正に寄与。</p> <p>構造改革特区評価・調査委員、PFI推進委員会委員、経産省の農商工連携88選委員長等を歴任。農商工連携、林建協働、平成検地の政策を提唱。</p> <p>現在は、建設産業、建設業の複業化、防災、森林再生、地方公共政策など幅広い分野で、フィールドワークを重視した研究と支援活動を行い、大震災後の防災・減災政策にも取り組む。日本学術会議会員。建設トップランナー倶楽部代表。上閉伊地域(釜石、遠野、大槌)復興住宅協議会顧問。JAPIC(日本プロジェクト産業協議会)森林再生事業化委員会特別顧問。国産材マーク推進会特別顧問。防災学術連携体(日本学術会議と連携)事務局長。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
渡邊 賢一	わたなべ けんいち	一般社団法人 元気ジャパン ／ 株式会社XPJP	2011年 経済産業省クールジャパン・フランス事業総合プロデューサー ：パリにヴィヴァージュ・ジャポンを開設し、地域資源のプロモーションを展開。 2012年 経済産業省クールジャパン・インド事業プロデューサー ：インド・ディズニー、カートゥーンネットワークと連携しキッズ事業をプロデュース。 2013年 経済産業省クールジャパンの芽事業プロデューサー ：アメリカ、フランス、イタリア、ベトナム、インド、インドネシアにて地域企業の海外展開マッチング事業を展開。パリではアラン・デュカス氏他の世界の料理人と連携したローカル・プロモーションを実施。 2015年 内閣官房クールジャパン有識者委員 ：ローカル・クールジャパン政策を推進。佐賀県有田焼400周年記念ARITA×NOBU事業総合プロデューサー ：世界的料理人NOBU氏と連携したオリジナル有田焼を7つの窯元と連携して制作し、ロンドンにてレセプション、商談を開催。欧州展開を実施。